

流行ニュース:<黄熱、セネガルの情報¹>

10月31日現在、厚生省は黄熱45症例と4名の死亡例を確認した。流行地区は Tambacounda 地方 Tambacounda 地区、Fatick 地方 Fatick、Gossas 地区、Diourbel 地方 Bambey、Mbacke、Touba 地区である。国の全地方においてサーベイランスは増大しており、現在までダカールでの伝播の証拠はない。Diourbel 地方のワクチン接種キャンペーンは、94%~99%の達成率(Touba = 99%)であり、10月14日からの症例は確認されていない。キャンペーンは Fatick 及び Gossas 地区で開始され、Tambacounda 地区でも計画されているが、追加のワクチンと作業支援が必要とされている。

研究室調査はダカールのパスツール研究所(IPD)のWHO共同研究センターによって行われている。Institut de recherche pour le developpement と IPD は昆虫媒介感染調査を行い、サーベイランスと疫学的調査において厚生省を支援している。

WHO は技術的援助とワクチン供給を支援しており、流行に対する財政的要求に添えて、ノルウェー政府と国際連合住民基金の支援を認めることとしている。 参照：¹No.43,2002,p.357.

<西ナイルウイルス、カナダの情報¹>

2002年9月30日、カナダ保健省は西ナイルウイルス感染症の110症例を報告した：死者1名を含む感染疑い例79名、確定症例31名。確定症例1名はアルバータ州居住、疑い症例1名と確定症例3名はケベック州居住、残りの疑い症例78名と確定症例27名はオンタリオ州居住であった。疑い症例のうち死者は5名であり、死因については調査中である。オンタリオ州での確定症例1名とアルバータ州での確定症例1名はアメリカを旅行中の感染とみられ、その他全ての症例は各々地元州にて感染している。

参照：¹No.40,2002,p.329

<西ナイルウイルス、アメリカ合衆国の情報¹>

2002年10月29日、疾病管理予防センター(CDC)の西半球における節足動物媒介ウイルスに関するWHO共同研究センターは、38州およびコロンビア特別区で生じた西ナイルウイルス感染3399症例と死者193名を報告した。2002年、西ナイルウイルスの活動(鳥、ヒト、蚊、他の動物、主としてウマの感染が証拠)が43州およびコロンビア特別区で文書化されていた。 参照：¹No.40,2002,p.329.

今週の話題:

<メジナ虫症根絶の再検討会議、Nouakchott(モーリタニア)、2002年10月28日-30日>

2002年当初から9ヶ月間のメジナ虫症根絶への進歩の審査のため、流行地とされる8ヶ国(ベナン、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国、コートジボワール、マリ、モーリタニア、ニジェール、トーゴ)のメジナ虫症根絶プログラム管理者を集め、Nouakchott(モーリタニア)にて会議が開かれた。カーターセンター、UNICEF、WHO、その他から代表者が出席した。そこでは、9ヶ月間の介入状況と流行データが提出され、データはWHOが支援している管理者教育用ヘルスマップ¹に入れられ、会議の全体報告は、WER2003年1月10日、No.1/2に発表される。

注¹ヘルスマップとは地理的情報システムのアプリケーションである。

<ポリオウイルス野生株の研究室での封じ込め計画の世界的進展、2001年7月~2002年8月>

1988年の世界保健会議でのポリオ撲滅決議から、ポリオウイルス野生株の流行国数は125から10(2001年)へと減少した。WHO地区では、アメリカ地区、ヨーロッパ地区、西太平洋地区においてポリオウイルス野生株根絶が証明されている。ポリオ撲滅証明に関する世界的指令によると、WHO全地域で少なくとも3年間ポリオウイルス野生株の流行がなく、研究室での封じ込めの証明が必要である。

1999年第52回世界保健会議にて、全参加国による“ポリオウイルス野生株の封じ込め計画の開始”の決議がなされ、2002年8月31日から、214の国や地域のうち、138ヶ所(64%)が研究所封じ込め活動の国家対策委員会を正式に設立し、121ヶ所が研究室調査を行い、76ヶ所が完了、ポリオ撲滅地域証明委員会に国家の研究所一覧を提出した(表1、地図1)。この一覧により、ポリオウイルス野生株に感染している資料を持つ1242ヶ所の研究室が確認された(表1)。

* 編集ノート:

研究所封じ込めの初期段階の一部である、ポリオウイルス野生株の感染材料を保持する研究所・組織の全世界の一覧完成に向けて、かなりの進歩があった。2001年6月以来、封じ込め活動の国家的計画をもつ国は110から138へ増加し、一覧を完了した国は11から76に増加した。WHO全地区での協力レベルは高く、これは研究所封じ込め計画のWHO世界的行動計画の第2段階に生かされるであろう。世界的計画では、ポリオウイルス野生株感染材料を持つ研究所数の縮減を強く奨励しているが、研究所が一覧に載り、規定された生物学的研究における安全性の条件を満たした場合、感染材料の保持を認めている。その条件は、設備や技術の基本的安全レベル(BSL-2)が要求される。

ポリオウイルス野生株の伝播が世界的に阻止されたら、研究所において、高レベルの封じ込め(BSL - 3 / polio)法が必要になるであろう。細菌学や寄生虫学の研究室では、クラス の生物学的安全キャビネットを用いるなど、BSL - 2 / polio の状況にて活動していくであろう。

ポリオウイルス野生株に感染した材料の研究室封じ込めは、ポリオウイルス野生株撲滅へ向けた世界的進歩に関係する段階のプロセスである。現在流行地とならずにいる全国家において、2003 年終わりまでにポリオウイルス野生株感染材料を持つ研究所の国家の一覧の完備が期待される。

表 1：国家計画、行動計画、ポリオウイルス野生株に感染した材料を持つと報告している研究所とその一覧、それらを持つ国家数、WHO 地域別状況、2001 年 7 月～2002 年 8 月

WHO 地域	国の数	国家計画を持つ国	研究所を調査している国	調査済み研究所	2002 年 8 月まで調査済み研究所	ポリオウイルス野生株の感染材料を持つ研究所	委員会にて再調査後の国家の一覧を持つ国
アメリカ	48	18	14	39,247	2,913	68	0
ヨーロッパ	51	51	50	42,065	35,510	807	41
西太平洋	36	36	36	13,855	13,178	69	31
アフリカ	46	7	0	0	0	0	0
東地中海	23	17	16	8,569	6,430	128	4
東南アジア	10	9	5	4,920	1,327	170	0
世界 / 総計	214	138	121	108,656	59,052	1,242	76

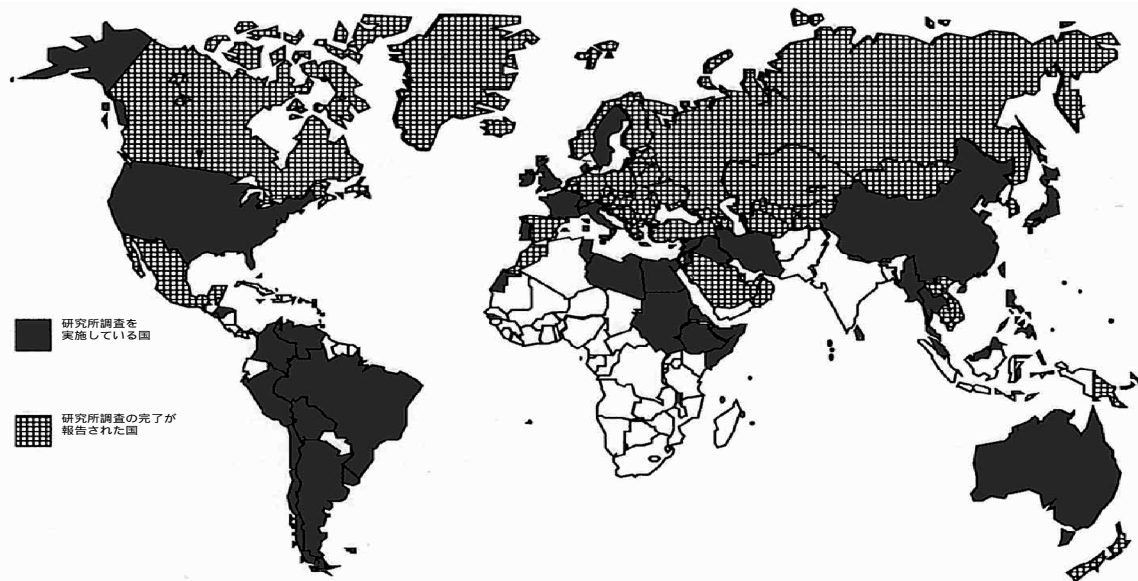
国や領域の数を表す。 研究所の数を報告する国もあれば、様々な研究所を管轄する機関を報告する国もあった。

ポリオ根絶認可地域。 ポリオ流行地域。

ポリオウイルス野生株の感染可能性のある材料も含む。データは報告されたもので、確認はされていない。

ポリオウイルス野生株に感染している材料を持つと調査によって確認された研究所のリスト。

地図 1：国家的研究所調査の世界的進歩



流行ニュース続報：＜インフルエンザ＞

ブラジル(2002 年 10 月 26 日)¹：季節の初めからインフルエンザの活動性は散発的である。サンパウロの症例から B 型ウイルスのみが確認された。

チリ(2002 年 10 月 26 日)¹：10 月第 4 週に A、B 型ウイルスの散発的症例が検出された。14 症例のうち 12 症例が B 型ウイルスである。

マダガスカル(2002 年 10 月 26 日)¹：アンタナリボにおいてインフルエンザ様疾患の割合が、季節の第 1 週からわずかに増加していたが、今は基準レベル以下。B 型ウイルスも検出されつづけている。

英国(2002 年 10 月 26 日)²：急性呼吸器疾患の全指標が低いレベルにとどまっている。10 月第 4 週にインフルエンザ様症状の症例がサーベイランスシステムに送られ始めたが、インフルエンザ陽性の症例はまだ出ていない。病院からのウイルス分離はまだされていない。参照：¹No.42,2002,p356.²No.43,2002,p364

＜WHO 感染症に関するウェブサイト一覧＞ (WER 参照)

(舟崎知恵、片岡陳正)